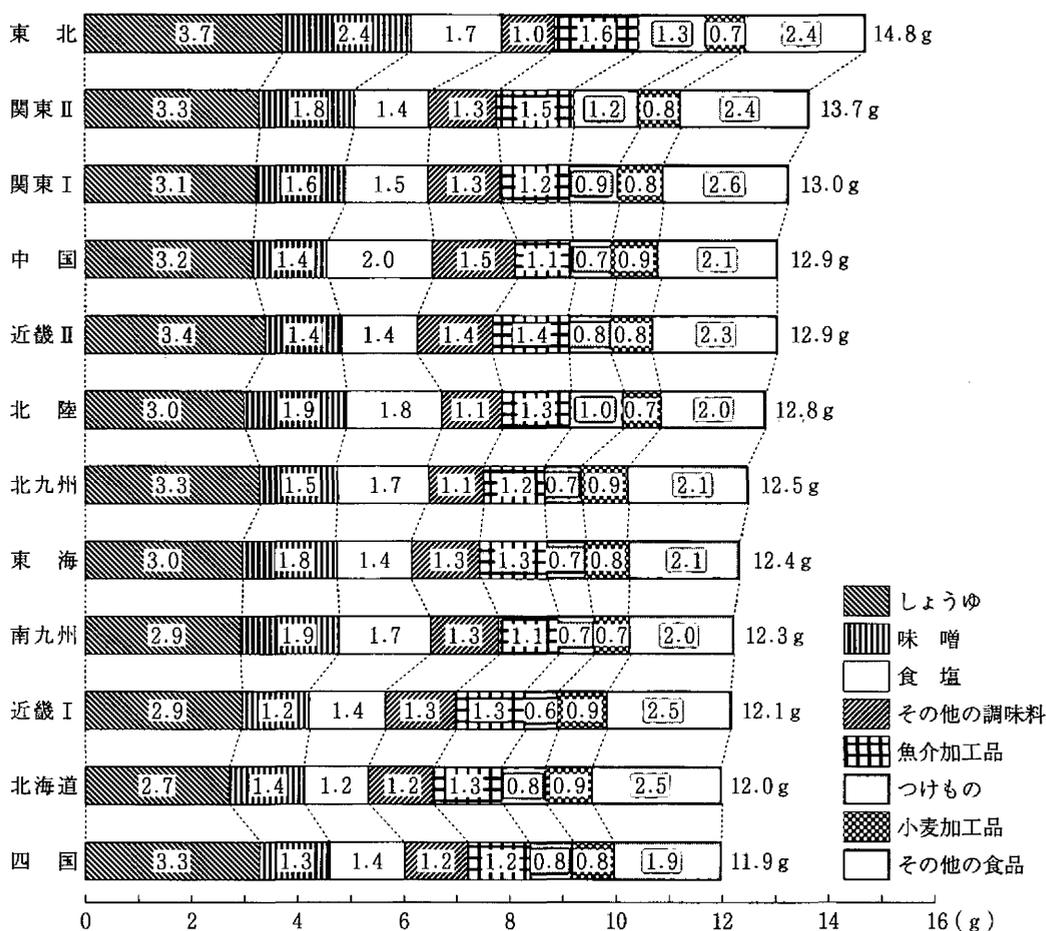


図22 食塩の食品群別摂取量（地域ブロック別）



次に、各出生年代別の体重変動を10年ごとに追跡したものを図26、27に示す。男性は20歳代から30歳代、40歳代にかけて体重は増加し、特に後続世代ほど体重の増加が著しい傾向にある。また、50歳代から60歳代、70歳代にかけて体重は減少していることが多い。一方、女性も男性と同様、20歳代から30歳代、40歳代にかけて体重は増加している。また、50歳代以降から60歳代、70歳代にかけては体重は減少している。

5. 外食の状況

外食について年次推移をみたのが図28であるが、昭和40年には11.3%であったものが増減を繰り返しながらも徐々に増加し、平成4年には18.8%までになっており、男女別にみても同様に増加の傾向がみられる。

また、年齢階級別に推移をみると図29、30のとおり、男女ともに各年代において増加の傾向を示

図 23 年齢階級別肥満とるいそうの割合（男）

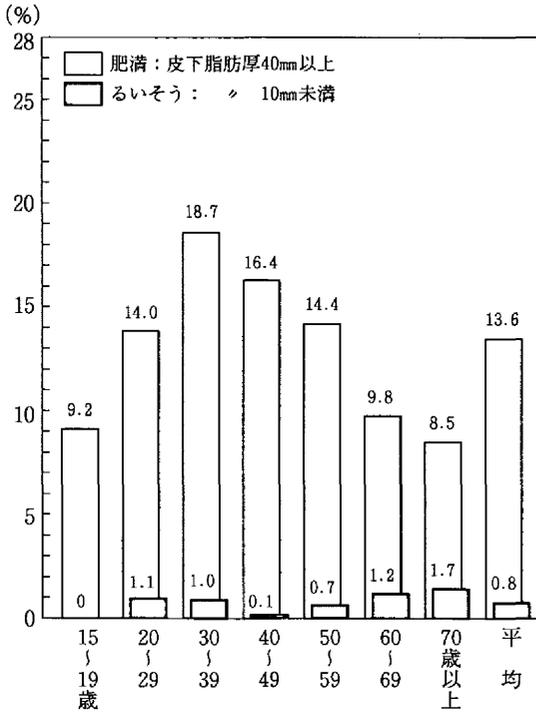


図 24 年齢階級別肥満とるいそうの割合（女）

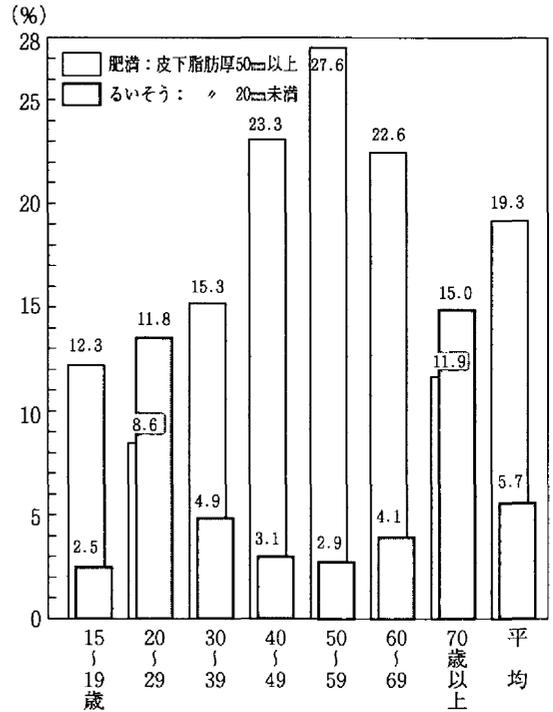
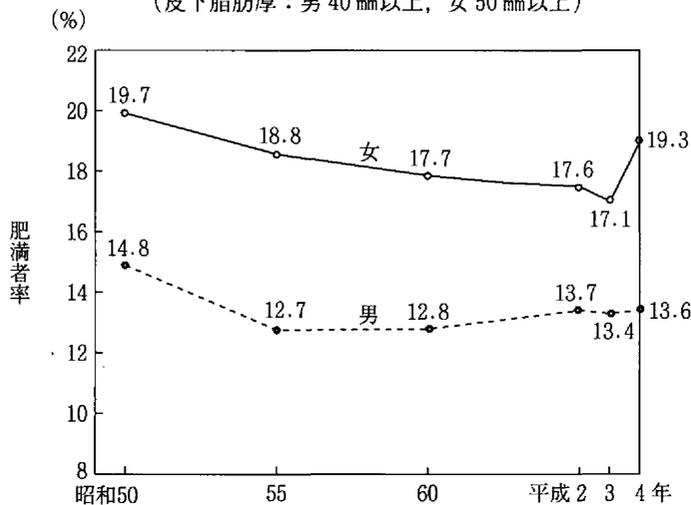


図 25 肥満者の年次推移
(皮下脂肪厚：男 40 mm 以上，女 50 mm 以上)



し、特に20～40歳代の伸びが大きい。

6. 食生活状況

食生活状況調査の実施に当たっては事前に調査員が記入要領を説明し、記入してもらった後、回収した。被調査世帯のうち、食事づくりを担当する人を対象として、朝食・夕食の調理に要する時間や調理済み食品の使用状況等について質問調査を行った。回収された食事づくり担当者4,995人の調査